

# 日多加産業株式会社

## 「ニーズの把握」が新分野挑戦の鍵 ～福祉分野で独自製品の開発～

### PROFILE

- ◆本社所在地：大府市横根町新江15-14
- ◆設立：1963年7月
- ◆代表取締役：日高 章
- ◆資本金：1000万円
- ◆従業員：130名
- ◆事業内容：自動車部品・家電電部品  
プラスチック成形加工及びその組立て品の製造  
プラスチック成形金型の設計及び製造
- ◆電話：0562-46-1911
- ◆http://www.hidakasangyo.co.jp/

1963年の創業以来、プラスチック射出成形加工を基盤事業とする日多加産業(株)。現在は、自動車部品のプラスチック製品がその主力。発注企業の要望に応じて製造するいわゆる下請企業であるが、最新の施設・設備を導入した24時間の生産体制の構築、成形から組立てまで一貫した受注・生産等により、世界規模で激化するコスト競争、多様化する需要、納期の短期化など、厳しい経営環境に積極的に対応する一方、自社ブランド製品の開発にも取り組んでいる。

### 【取組のきっかけ】

同社が自社ブランドとして開発したのは、車椅子向けテーブル「Ageha(アゲハ)」。

特徴は、軽量でコンパクト、折り畳んで持ち運びが可能で、プラスチックを扱う加工技術と、プラスチックの特性の「軽さ」を活かした製品である。

取組のきっかけは、リーマンショックと東日本大震災の影響による売上の減少。メーカーの事情により、思うように生産できない下請企業の厳しい現実に直面したことが、自社ブランド開発に向けた強い想いを生んだ。

### 【取組内容】

福祉の分野への取組を決めたのは、「地域への貢献」の想いから。地元の大府市が、健康長寿の一大拠点の形成を目指し、健康・医療・福祉・介護施設や企業の集積地を目指す「ウェルネスバレー構想」を推進しており、関連の取組に対して補助金が活用できることも後押しとなり、2009年9月、代表取締役の日高章氏が中心となって、社員の有志がなるプロジェクトチームを立ち上げ、活動を始めた。



開発に至る一連の取組の中で最も苦労したのは、具体的に開発する「何か」を決めるためのニーズの把握。福祉機器メーカーや病院に問い合わせても、門前払いで全く相手にされず、中小企業単体での取組には限界を感じた。それでも取組を諦めなかったのは、何よりも地域の人のためにとの強い「想い」。「負けたくない」「見返したい」という意地もあった。

閉塞した状況を打破するため、日高社長が思い至ったのが「企業のグルーピング」。大府商工会議所に相談したところ、この発想が受け入れられ、2011年、商工会議所内に、製造業部会の若手の経営者を中心とした「ウェルネス開発研究会」を発足させた。研究会の一員として、メンバーとともにニーズの掘り起こしや、各社の技術を活かした新製品の開発に積極的に取り組むことで、経験や人脈が培われ、結果として、同社が単体で行うニーズ調査に協力してくれる施設を見つけることができた。

個別に実際のニーズを聞く中で、「車椅子に乗せるテーブル」に関する要望に目を付けた。従来のものは、家具として製作されることが多く、木製で重いものがほとんどだが、自社であれば、プラスチックの特性である「軽さ」を活かした製品が提案できるのではないかと。「折り畳んで持ち運び可能」、「気軽に使い易い」という今までにない工夫を加え、試作を重ね、2011年について念願の独自ブランドとして、販売を開始した。

商品名の「Ageha」は、プロジェクトチームの女性陣の意見から、折り畳む形状を蝶になぞらえ、カラフルな色で商品展開することを決めた。女性ならではの洗練されたデザインとやわらかい発想が活かされている。イメージコンセプトができたことで、以後の開発は楽しみながら短期間で行うことができた。

今後の課題は販売。今でも、地道に少しずつ売れてはいるが、「モノを作る」ことはできても、販売チャンネルを持たない下請企業のため、最終的に「売る」ことの難さに直面している。

将来は、ホームセンターや福祉医療機器メーカー等での取り扱いを目指しているが、まずは、インターネットや新聞等のメディアを活用し、情報発信力を強化することで販売に繋げていく考えである。

### 【取組の成果—本体事業にもたらした効果】

オリジナル製品の開発は、会社全体の技術力を向上させ、既存の取引先からの信頼度も増し、確実に仕事の受注増に繋がっている。また、メディアで紹介される機会が増えたことで、知名度やイメージがアップし、既存の主事業において新たな企業との取引も生まれるなど、新事業への取組が、会社全体に大きな効果をもたらしている。

